

# 酒米使用の縁 寄付11回目

## コウノトリ基金に京都の蔵元

豊岡市がコウノトリ野生復帰事業を進めるために設けている「コウノトリ基金」に、隣接する京都府京丹後市久美浜町の蔵元「木下酒造」（木下善人社長）が23万3350円を寄付した。同社は自然環境に配慮した農法による「コウノトリ育むお米」を原料にした日本酒を造っており、売上げの一部を充てた。

同社は2009年から「コウノトリ育む農法」で栽培された酒米の五百万石で酒を仕込み、翌10年度からコウノトリ基金へ寄付をしている。これで11回、総額272万9200円にのぼる。

このほど木下光取締役が寄付金と、ラベルにコウノトリが描かれた「玉川 純米吟醸」「玉川 自然仕込

生酛まもと純米酒」を携えて豊岡市役所を訪れ、中貝宗治市長へ手渡した。

木下さんは「コウノトリの住む豊かな自然環境で育まれた無農薬の酒米で、安全安心を飲み手にも実感してもらえる。コウノトリを愛し、自然との共生を進める皆さんの思いを形にできれば、と毎年寄付を続けています」と話した。純米吟醸は品のある香りと旨みうまみを冷やで、辛口の生酛は熱燗あつかんで味わってほしいという。

中貝市長は「酒米として継続して評価いただけているのがうれしい。おいしいお酒がコウノトリとの共生の原動力にもなるのは、ありがたい」と感謝した。

(中村幸基)

潮

12日・中潮  
津居山港

18.04 —  
満潮 —  
1.34 —  
干潮 —

2020年4月診察

神戸市

